

っても基本的に重要な問題である。メルト相以外の成長の場合の不純物吸着に関しては Chernov の理論的なとりあつかいが今後の指導理念になるであろう。実験的には成長中の結晶表面における吸着分子の構造や吸着場所を明らかにすることが今後の研究課題になる。それを明らかにする各種の方法が最近急速にのびてきている。また液相と固相での不純物の分配や固相中での偏析結晶中での格子欠陥の分布を明らかにする実験的研究が進められる必要がある。

結晶の形態は古くして新しい問題である。平衡形についての各種の理論がだされているがその多くはステイックな考え方にたっている。その考え方を基準とし

てカイネティックな問題である現実結晶の成長形(晶相)を解析しようとする研究が Hartman Kern を中心として盛んに進められており不純物吸着の晶相に与える影響に関する限りかなり成功をみている。しかし一方でカイネティックな結晶成長機構を足場にして晶相の問題を考える試みははじめられだしてもおりたとえば Mason らによる氷の結晶についての研究があげられよう。私自身どちらかというとな後者の立場の方に将来性をみている。この種の問題は鉱物学地質学の分野でも研究を促進すべき問題であり研究対象を豊富にもっているのである。

(筆者は鉱床部鉱石課長)

## 早川・中村両技官ら 科学技術庁官賞授与される

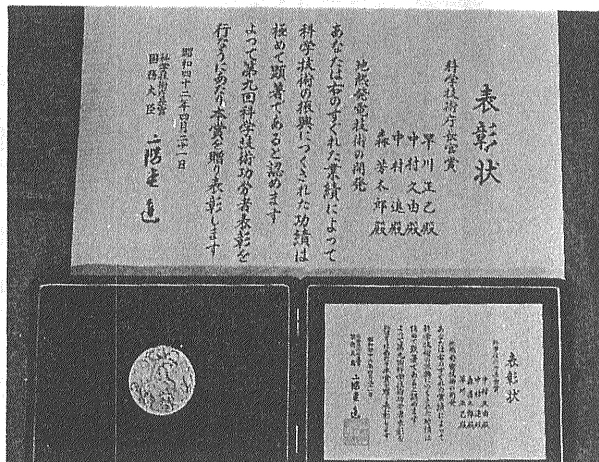
科学技術庁では毎年わが国の科学技術水準の向上に顕著な功績をあげた者に対して科学技術長官賞を贈って科学技術功労者の表彰を行ないその功績をたたえている。本年はその第9回目に当り10件19名がえらばれ去る4月21日東京平河町の全共連ビルで二階堂科学技術庁長官から賞状と銀メダルが授与された。

受賞テーマとしては自動列車停止装置(ATIS)の開発(国鉄関係者4名)宇宙通信用メーザ装置の開発小型VTR(ビデオ・テープ・レコーダ)の開発超小型電子計算機の開発等と共に地熱発電技術の開発があげられた。

地熱発電技術の開発の受賞者は地質調査所物理探査



科学技術庁官賞をうけた 右から 森(東化工) 早川部長 中村(東化工) 中村課長のみなさん 部長早川正巳技官 同応用地質部環境地質課長中村久由技官および東化工(株)の中村進 同森芳太郎の諸氏である。



賞状(左)と銀メダル